

# 京大広報

No. 455

京都大学広報委員会



五味禪：京都大学人文科学研究所・松本文庫所蔵

## 五味禪（十牛圖）

宋時代の禪書の一つで、牛と牧人とを描いた10枚の絵と短い文によって、修行と悟りの過程を示す。本書は、南北朝初期の五山版で、筆致が精緻な版本である。

—関連記事本文 624 ページ—

## 目 次

〈大学の動き〉		訃 報……………	623
日本語・日本文化研修留学生について……………	620	平成5年度附属図書館展示会	
部局長の交替等……………	620	「京洛出版の軌跡—五山版、古活字版、八文字屋本—」の開催……………	624
〈部局の動き〉		〈随想〉	
数理解析研究所創立30周年記念式典・祝賀会……………	620	大学教授学	
〈資料〉		名誉教授 笈田 知義…	625
人事院勧告の取扱いに関する国立大学協会の要望書……………	621	〈コラム〉	
〈紹介〉		紙のリサイクル	
体育指導センター……………	622		佐田 榮三… 626

## ＜大学の動き＞

## 日本語・日本文化研修留学生について

昭和57年度から、本学では「日本語・日本文化研修留学生制度」(『京大広報』No.240 参照)による留学生を受け入れているが、平成5年度は13か国から18名を留学生センターで受け入れることになり、10月13日(水)芝蘭会館において万波留学生センター長はじめ関係教職員の出席のもとに開講式が行われた。

また、平成4年度の留学生17名に対する修了式が9月10日(金)京大会館において開催され、修了証明書が授与された。

本年度の研修の概要は、次のとおりである。

日本語・日本文化研修留学生に対する教育課程、  
授業計画及び授業時間数

	授 業 科 目	授 業 時 間 数		
		第一期 (10～3月)	第二期 (4～9月)	計
〔Ⅰ〕 日 本 語	① 読解・口頭表現	時間 30	時間 30	時間 60
	② 日本語講読	30	30	60
	③ 文章表現	30	30	60
	小 計	90	90	180
〔Ⅱ〕 日 本 事 情	① 日本事情 (A)	32	26	58
	(ア) 日本の社会に 関する概説	(10)		(10)
	(イ) 日本の法政に 関する概説	(12)		(12)
	(ウ) 日本の経済に 関する概説	(10)		(10)
	(エ) 各分野の諸問 題		(26)	(26)
	② 日本事情 (B)	50	42	92
	(ア) 日本文学	(20)	(22)	(42)
(イ) 日本文化・歴 史(風土を含む)	(30)	(20)	(50)	
	小 計	82	68	150
〔Ⅲ〕 特 別 教 育	① 現代産業及び現代文化に関する参観・研修等	60		60
	② 伝統産業及び伝統文化に関する見学等		60	60
	③ 特別講義		30	30
	小 計	60	90	150
	日本語強化コース	240	80	320
	合 計	時間 472	時間 328	時間 800

## 部 局 長 の 交 替 等

原子エネルギー研究所長

高橋幹二原子エネルギー研究所教授(原子炉保安工学研究部門担当)が11月1日原子エネルギー研究所長に再任された。任期は平成7年3月31日までである。

## ＜部局の動き＞

数理解析研究所創立30周年  
記念式典・祝賀会

本年度に創立30周年を迎えた数理解析研究所は、10月18日(月)午前11時から、京大会館において記念式典を催した。

式典では、初めに荒木不二洋所長が「数理科学のセンターオブエクセレンスとして、国際的に最高の研究水準を保ちつつ、研究の機動性と独創性を高め、飛躍的發展を実現していきたい」と挨拶を行い、つづいて、赤松良子文部大臣(代理 田中壯一郎研究機関課長)、井村裕夫京都大学総長、佐藤文隆京都大学大学院理学研究科長、山口昌哉日本学術会議数学研究連絡委員会委員長、岡本道雄国際高等研究所長の祝辞があった。

式典終了後、祝賀会が催され、赤池弘次統計数理研究所長、菅原寛孝高エネルギー物理学研究所





長、長岡洋介京都大学基礎物理学研究所長の祝辞のあと、西島安則京都大学名誉教授の発声で乾杯、全国各地から出席した130名の関係者が、なごやかに歓談した。

この日、近藤次郎日本学術会議会長、沢田敏男日本学術振興会会長、山崎敏光文部省所轄並びに国立大学附置研究所長会議会長ほか多数の祝電が寄せられた。

なお、同日創立30周年記念事業として記念講演会が開催され、数理解析研究所大講演室において次の講演が行われた。

14:00~15:00

「表現論の代数解析」

京都大学数理解析研究所教授 柏原正樹

15:15~16:15

「応用数理とコンピュータ」

東京大学工学部教授 森 正武

(数理解析研究所)



## <資料>

### 人事院勧告の取扱いに関する 国立大学協会の要望書

このたび国立大学協会会長から、人事院勧告の取扱いに関し、以下のとおり文部大臣、大蔵大臣及び総務庁長官宛に要望書を提出し、その趣旨に則り配慮方を要望した旨報告があった。

平成5年9月27日

国立大学協会会長

吉川 弘之

#### 人事院勧告の取り扱いに関する要望書

人事院による国家公務員の給与勧告が、労働基本権制約の代償措置として、また国家公務員の給与水準を適正に維持する制度として定着し、公務の能率的運営と公務員労使関係の健全性の実現に大きく寄与していることは周知の事実であります。

この数年間は、関係者の努力により、勧告どおり給与の改定が行われ、これにより各大学においても職員の勤務意欲の向上や、労使の信頼関係の保持等の点で好ましい影響もたらされております。

もとより、当国立大学協会は、国の財政が極めて厳しい状況におかれていることも十分に承知しているところであり、各大学においては、過去数次にわたる厳しい定員削減の中で行政経費の節減・抑制について不断的努力を重ねております。

現在、国立大学においては、高等教育及び学術研究の高度化の積極的推進が最重要課題とされており、またこれが国民的期待でもあると考えます。しかしながら、国立大学における教育研究環境としての研究費、施設設備、教員の給与水準については危機的状況にあり、上記の課題に積極的に取り組むためには、大学教職員の適切な処遇を確保することが必要不可欠であります。このことがひいては優秀な人材を確保し、将来にわたる我が国の高等教育及び学術研究の進展に寄与するものと確信いたします。

上記の理由により、国立大学協会は、人事院勧告が、早期完全実施されることを強く要望する次第であります。

<紹介>

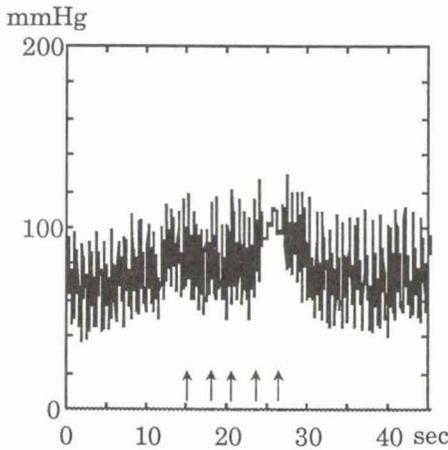
体 育 指 導 セ ン タ ー

体育指導センターは学生の体育活動の指導・助言及び学生の体育指導に関する専門的業務を行うための施設として、昭和47年5月1日国立学校設置法施行規則の改正により設置された。開設以来、本センターでは、一般学生や運動部学生（時には教職員）を対象に、体力測定、運動処方を作成、各種トレーニングの現場指導、資料や文献の紹介、その他健康増進や競技力向上のために必要な知識や実技に関する指導や助言を行っている。

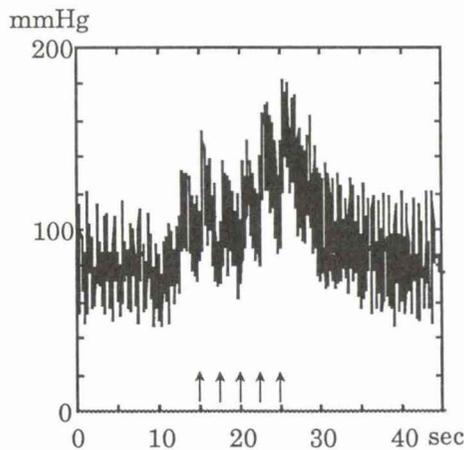
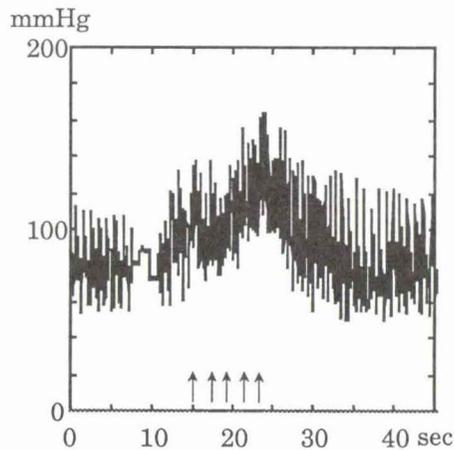
また、平成4年度からは新たに設けられた全学共通科目の一部として、スポーツ医・科学に関する授業（講義）の提供も行っている。学生が体育活動に親しむことは、精神や肉体のバランスを健全な状態に保つうえで極めて重要なことと考えられている。そこで、平成3年7月に大学設置基準が改定され、大学における正課体育が本学においても一部学部を除いて選択制となったことを考慮すると、本センターが担う役割は今後増々重要なものとなろうとしている。

当センターの研究活動は、センターの当面の役割に関連した実務的な研究と、その基礎となるス

40%max



60%max



最大挙上可能重量のそれぞれ40%、60%、80%の重量のバーベル  
両手で各5回挙上したときの耳介部血圧波形の変化の様子



実験風景 バーベル挙上中耳介部動脈での血圧変動の測定

スポーツ科学，健康科学の研究とに大別することが出来る。その内容は，体育活動に関するデータベースの開発，運動処方マニュアルの作成，運動制御に関わる筋や神経の電気生理学的研究，そして運動中の非観血的連続血圧測定による循環機能に関する研究が主なものであるが，ここでは最後に挙げた血圧の研究について少々述べてみたい。

運動中の血圧の動態を知ることはスポーツ医学の研究上極めて有意義なことであるが，時々刻々変動する血圧波形を非観血的に正確に測定することは極めて困難である。本センターでは昭和52年以來，元センター長の万井正人教授（現名誉教授）を中心に独自に開発した最高血圧連続測定装置を用いて研究が進められ，これについては『京大広報』No.303（1985.12.15）でも紹介した通りである。ところが，この血圧測定装置は，最高血圧の

みしか測定出来ない，時定数が大きくて瞬時の血圧変化には十分に対応出来ないといった欠点があり，新しい高精度の測定装置の開発が必要であった。そこで，平成4年，文部省科学研究費の給付を得て，医学部附属病院放射線部笹山 哲助手と共同で，米国で開発された手指動脈圧波形計測装置をベースにして，耳介部の動脈圧波形を非観血的に連続計測することが可能な装置を作成した。この装置により，これまで測定困難であった手や腕の動きを伴う運動や作業中の瞬間的に変動する血圧波形の動態を正確に把握することが出来るようになり，スポーツ医学や運動生理学，あるいは人間工学の分野で多くの新しい知見が得られつつある。

（体育指導センター）

## 計 報

### 鶴 井 明 教 授

本学工学部教授 鶴井 明 先生は，10月9日逝去された。享年51。

先生は，昭和40年本学工学部卒業，昭和45年3月本学大学院工学研究科博士課程（数理工学専攻）を単位取得退学後，本学工学部助手，広島大学工学部講師，同助教授，本学工学部助教授を経

て，平成元年より同教授に就任された。

先生の専門は構造信頼性工学で，特に確率的破壊力学，金属材料の耐疲労信頼性評価に関する研究で数多くの業績をあげられた。著書として，『工業力学』（培風館）がある。

また，先生は学部及び大学院学生の教育・研究指導にも熱心に取り組み，多数の優秀な後進を育成された。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

（工学部）

## 平成5年度 附属図書館展示会

## 「京洛出版の軌跡—五山版、古活字版、八文字屋本—」の開催

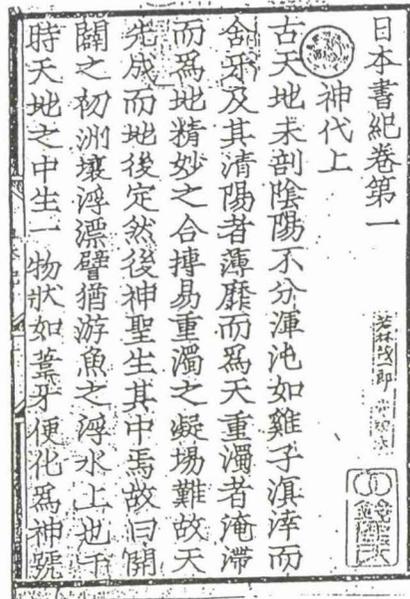
本館では、例年、館内及び学内所蔵資料の市民への一般公開を兼ねて、様々な展示会を開催しております。今回は、「京洛出版の軌跡—五山版、古活字版、八文字屋本—」と題して下記のとおり開催いたします。

我が国における刊本の歴史は一部の例外を除いて、鎌倉時代の寺院における仏教関係の書籍の木版による出版から始まります。中でも禅籍を中心とした五山版は良く知られております。その後、時代が降って安土桃山時代には朝鮮やヨーロッパから活字が伝わり、慶長、元和年間には、木活字による出版が盛んになります。これらは古活字版と呼ばれております。更に、江戸時代に入ると民衆を対象とした、木版による商業出版が興ってまいります。このような出版の流れにおいて常に中心となっていたのが京都であります。

来年、平成6年は平安建都1200年の記念すべき年にあたり、各方面で様々な行事が予定されておりますが、その一環として、今回の展示会では京都の出版史を主題とし、文学部、医学部、人文科学研究所等の協力のもとに、有意義な資料を選定して展示いたします。

## 記

- 期 間：平成5年12月1日（水）  
 ～12月10日（金）  
 （日曜日は除く）
- 時 間：午前10時～午後5時  
 （入場は午後4時30分まで）
- 会 場：附属図書館展示ホール（3階）
- 講演会：「本屋と草紙屋」  
 （講師） 浜田啓介教授（総合人間学部）  
 （日時） 平成5年12月7日（火）  
 午後3時～4時30分  
 （会場） 附属図書館AVホール（3階）  
 （定員 100名、先着順）



「日本書紀」（古活字版）：  
 京都大学附属図書館蔵

（備考） 展示会、講演会とも一般公開、入場無料

（附属図書館）



